

## モニタリング検討会平成 27 年度報告会に関する報告

遠藤優年

平成 28 年 3 月 16 日（水）9：30 から 12：00 に、裏磐梯エコツーリズム協会が主催するモニタリング検討会平成 27 年度報告会が裏磐梯自然環境活用センターにて行われ、アドバイザーとして生物多様性保全研究室の黒沢高秀教授，首藤光太郎，根本秀一（共に博士後期課程 2 年），オブザーバーとして遠藤優年（博士前期課程 1 年），薄井創太（3 年）の計 5 名が参加しました。

報告会では五色沼湖沼群で問題になっているヨシ繁茂による景観悪化の問題や，裏磐梯地域の絶滅危惧種，オオハンゴンソウ・コカナダモなど帰化植物の生育状況，湖沼の水質の変化，ウチダザリガニのモニタリング結果などが報告されました。アドバイザーは，コカナダモの問題について「外来種の駆除は上流からが基本ですが，初めは景観確保を目的とし，最終的には根絶を目指す方向にシフトすべき」，大腸菌群数について「断定するのは難しいが，ヒトに由来する糞便性大腸菌群が一定数存在するといつて間違いはないだろう」など，磐梯朝日遷移プロジェクトにより得られた科学的知見を活かして，アドバイスを行いました。

また，特別参加していた日本エコツーリズム協会の方からは「モニタリングが行われている場所が少なく，裏磐梯はその数少ない場所の 1 つであるため，モデルエリアとしていきたい。」との発言がありました。問題を全て解決するまではいかななくても，現状を把握・維持・改善するためにモニタリングは重要であり，地元住民の理解がなければモニタリングを継続することも困難です。アドバイザー側も，1 年だけでなく 2 年・3 年…と長い関与が必要であり，こういった場に学生が関わっていることはプロジェクトの成果の 1 つでもあると思われま



写真. モニタリング検討会平成 27 年度報告会の様子。